

第19回

学生と教職員の交流の場

学内と社会を結ぶ交流の場

琉大21世紀フォーラム



日時

平成20年10月24日(金)
17:15～18:15

場所

琉球大学法文学部新棟 2階215教室

話題：琉球列島の津波石と台風石 — 過去数千年間の自然の猛威 —

発表者：河名 俊男（琉球大学教育学部教授）

2007年の台風4号は最低気圧が930ヘクトパスカルに下がり、沖縄島南部の喜屋武では、台風の高波による浸食で、長さ約75m、幅約5mの新たな谷が形成されました。1951年のルース台風は沖縄島に接近した時は930ヘクトパスカルを割り、巨大な岩塊が傾いたり、巨大な「きのこ状の岩」が折れたりしました。歴史書の『球陽』を調べてみますと、1832年に猛烈な台風が沖縄島に接近し、南部の荒崎では、「カサカンジャー」と呼ばれる巨大な岩塊が海拔約10mの地点まで打ち上げられました。

津波については、1771年の明和津波が宮古・八重山諸島を襲い、約12,000人の犠牲者を出し、石垣島では最高の遡上高は約30mに達しました。津波の痕跡は津波石という形で各地に残されていますが、過去数千年間を考えると、明和津波以前にも何回か大津波が襲来したことが分かりました。

歴史書や古文書も紐解きながら、過去数千年間にわたる琉球列島の津波石と台風石を紹介したいと思います。

発表者 プロフィール



河名 俊男
琉球大学教育学部教授

略歴

1974年3月 東京大学大学院理学系研究科博士課程満期退学
1974年4月 琉球大学教育学部助手
1992年4月 琉球大学教育学部教授
2008年4月 琉球大学島嶼防災研究センター併任教員

主な著書

『琉球列島の地形』（単著）、新星図書出版、1988年
『日本の地形7 九州・南西諸島』（共編著）、
東京大学出版会、2001年

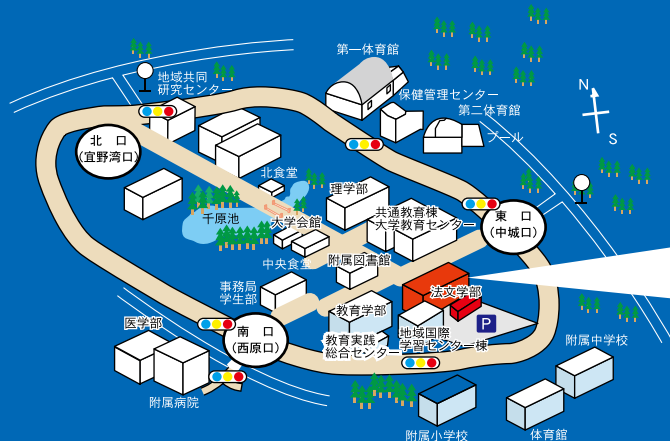


●今後のフォーラム（予定）●

第20回 講師：よしもと ばなな（作家）
 ブルース・R・ベイラー（日本ロレックス（株）代表取締役社長）
 話題：これから社会に出る若者たちへ（仮題）
 日時：2008年11月 7日（金） 17：15～18：15

※なお、学外来訪者をお願いして臨時フォーラムを開催することがあります。

建物配置図



法文学部新棟2階

